

吉川つばさ保育園が めざす保育

子どもたちにかかわるすべての人が当事者となろう！

日本の子ども達の現状①

Q1 あなた自身について、お答えください。(各国n=1000)
 (※各設問「はい」回答者割合)

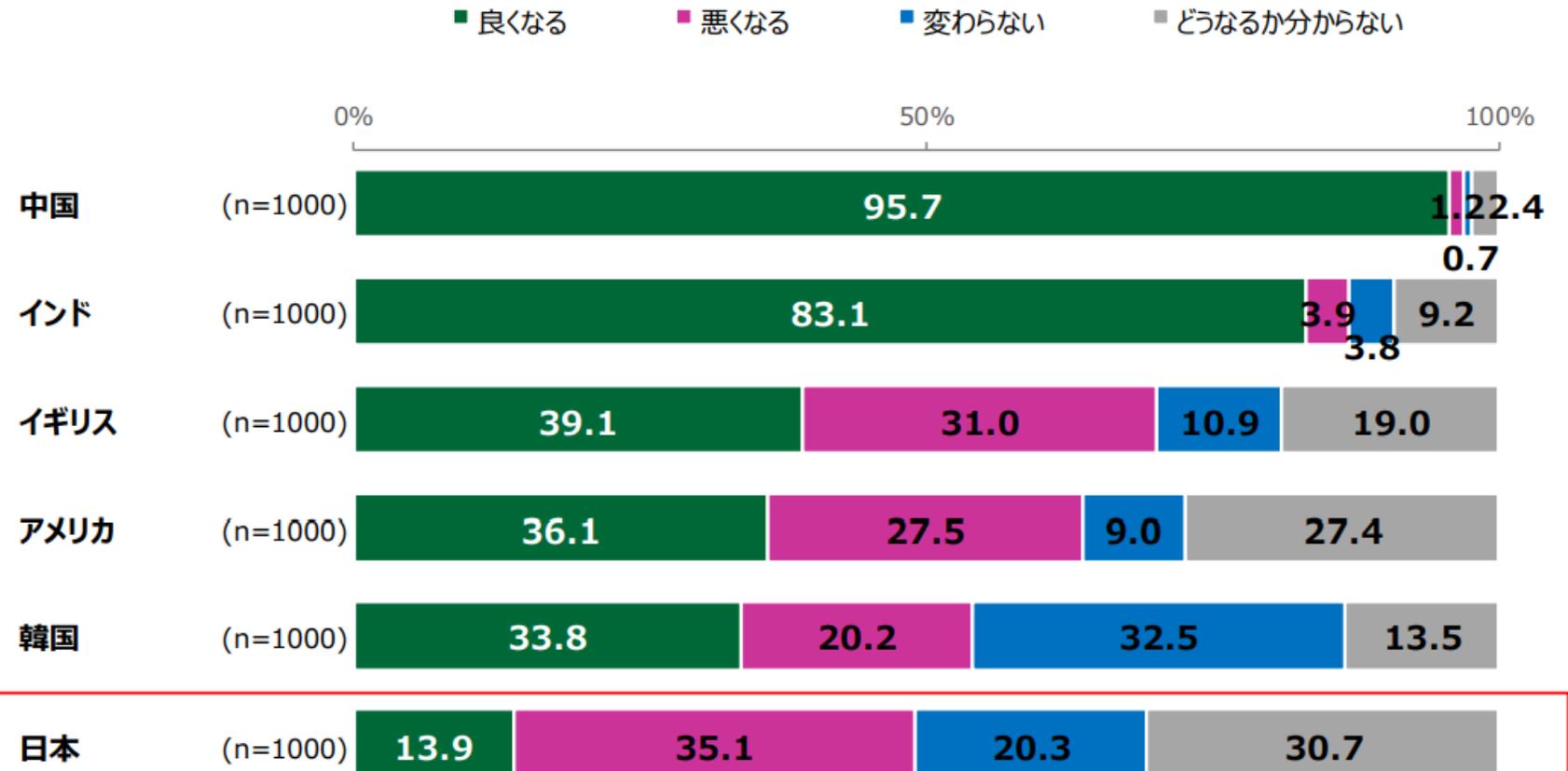
		自分を大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	将来の夢を持っている	自分で国や社会を変えられると思う	自分の国に解決したい社会課題がある	社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している
日本	(n=1000)	29.1%	44.8%	60.1%	18.3%	46.4%	27.2%
インド	(n=1000)	84.1%	92.0%	95.8%	83.4%	89.1%	83.8%
インドネシア	(n=1000)	79.4%	88.0%	97.0%	68.2%	74.6%	79.1%
韓国	(n=1000)	49.1%	74.6%	82.2%	39.6%	71.6%	55.0%
ベトナム	(n=1000)	65.3%	84.8%	92.4%	47.6%	75.5%	75.3%
中国	(n=1000)	89.9%	96.5%	96.0%	65.6%	73.4%	87.7%
イギリス	(n=1000)	82.2%	89.8%	91.1%	50.7%	78.0%	74.5%
アメリカ	(n=1000)	78.1%	88.6%	93.7%	65.7%	79.4%	68.4%
ドイツ	(n=1000)	82.6%	83.4%	92.4%	45.9%	66.2%	73.1%

2019年 日本財団調査資料
 国や社会に対する意識 (9カ国調査)

日本の子ども達の現状②

Q 自分の国の将来についてどう思っていますか。（各国n=1000）

※「良くなる」回答率が高い順に掲載



2019年 日本財団調査資料
国や社会に対する意識（9カ国調査）

日本の子ども達の現状③

Q 以下の項目に同意しますか。(各国n=1000)

※「はい」回答率を掲載

(単位: %)	自分は大人だと思ふ	自分は責任がある社会の一員だと思ふ	自分の行動で、国や社会を変えられると思ふ	国や社会に役立つことをしたいと思ふ	慈善活動のために寄付をしたい	ボランティア活動に参加したい
日本	27.3 6位	48.4 6位	26.9 6位	61.7 6位	36.2 6位	49.7 6位
アメリカ	85.7	77.1	58.5	73.0	66.7	70.4
イギリス	85.9 1位	79.9	50.6	71.2	69.5	64.2
中国	71.0	77.1	70.9	82.1	78.9	85.3 1位
韓国	46.7	65.7	61.5	75.2	62.4	70.7
インド	83.7	82.8 1位	78.9 1位	92.6 1位	83.7 1位	78.1

日本の子ども達の現状④

Q 以下の項目に同意しますか。（各国n=1000）

※「はい」回答率を掲載

(単位：%)	将来の夢を持っている	自分の将来が楽しみである	社会が今後どのように変化するか楽しみである	多少のリスクが伴っても、新しいことに沢山挑戦したい	多少のリスクが伴っても、高い目標を達成したい	リスクのある挑戦よりも、経済的安定を重視する	リスクのある挑戦よりも、心理的安定を重視する
日本	59.6 6位	57.8 6位	54.0 6位	49.0 6位	44.9 6位	70.4 6位	68.3 6位
アメリカ	82.1	79.0	75.6	77.0	79.2	76.5	74.5
イギリス	78.3	75.7	71.1	78.1	81.4	72.6	71.7
中国	84.7	86.9	85.6	79.8	78.8	78.7 1位	78.1 1位
韓国	81.5	77.6	72.3	68.6	67.2	76.6	76.7
インド	93.3 1位	90.6 1位	88.5 1位	84.4 1位	87.6 1位	74.2	75.9

2022年 日本財団調査資料
「18歳成人・18歳の価値観」

日本における教育の成果として、現代の若者は自尊心や自己肯定感、社会に対しての当事者意識がとてつ低い（他人任せ）。しかし、「VUCA」（不安定，不確実，複雑，曖昧）が急速に進展する世界を生きていけないといけない。これから求められる子どもたちの力とは何なのでしょう？

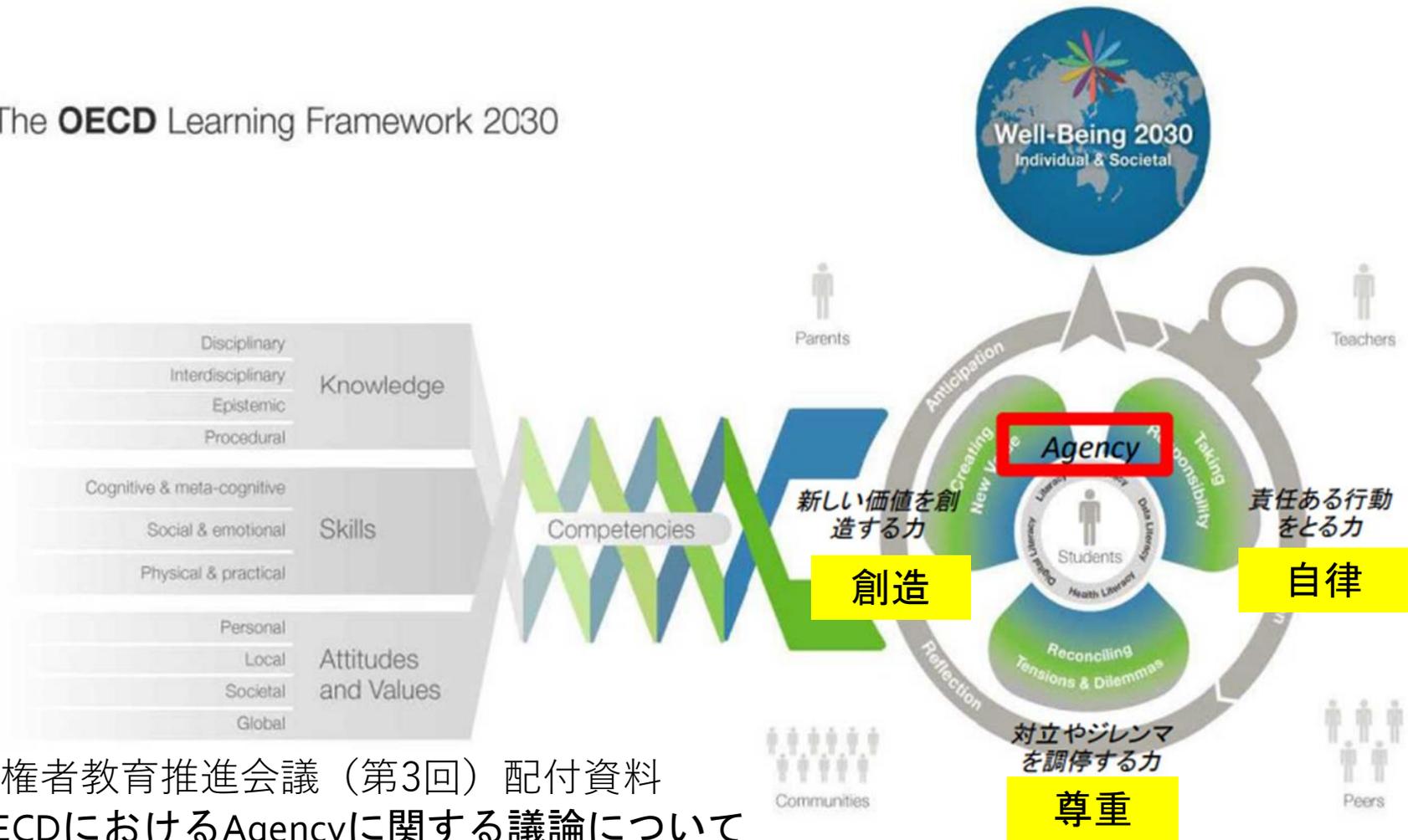


OECD Education 2030 プロジェクト

Figure 1. The OECD Learning Framework 2030: Work-in-progress

個人の幸福と社会の幸福

The **OECD** Learning Framework 2030



主権者教育推進会議（第3回）配付資料
OECDにおけるAgencyに関する議論について
白井俊 参照

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/142/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2019/01/28/1412759_2.pdf

Agencyとは、「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」として定義づけられています。

→当事者意識を持ち、課題を解決していく姿勢を獲得していくこと。

子どもをとりまく周囲の環境（子ども、保育者、保護者、地域）との相互作用によって身についていく力です。



これから求められる力の基盤を育てることを
保育園では大切にしていきます。そのことを
つばさ保育園の理念として掲げて保育を行っ
ていきます。



吉川つばさ保育
園の保育理
念と保育目
標

【保育理念】

よりよい共生社会を創造し推進する

一人ひとりが社会の一員として自己を発揮しながら、様々な人種や個性、年齢、性別等を持つ他者を受け入れ認め合い支え合う「共生」の心を育てます。

人は自分以外の人や環境の支えや協働があっ
て生きていることを知り、自分の行動や持っ
てい
る知恵、知識によって積極的に社会参加、社会
貢献すること
で誰かを幸せにし、よりよい共生
の社会を築き、深めていくことに喜びを感じ、
自分を大切に存在として認識して、今を、将来
を生き抜いていくことのできる子どもの育ちを
支えます。

吉川つばさ保育園の保育理念と保育目標

共生...異種の生物が、相互に作用し合う状態で生活すること。相利共生と片利共生があり、寄生も含めることがある。

多様性を認めること→意見の対立やジレンマは必ず起きます。ただし、違いを受け入れることはとても苦しいことです。そこで、最上位の目標に向けて対話することが必要です。



吉川つばさ保育園の保育理念と保育目標

【保育目標（目指す子ども像）】

素直で思いやりのある子ども

- ・ 自分のやりたいことをできる子ども
（意欲的な子ども）
- ・ 自分を好きでいる子ども
（自尊感情のある子ども）
- ・ 自ら課題を見つけ、自ら課題解決のために考え行動できる子ども
（主体的に行動できる子ども）
- ・ 思いやりのある子ども
（人の気持ちに寄り添える子ども）



吉川つばさ保
育園の保育理
念と保育目標

- 自分のやりたいことをできる子ども（意欲的な子ども）
- 「やりたい」という思いは自発的な遊び、さらには遊びの発展に必要な欲求です。自ら「やりたい」を見つけ、選択することで、自由と責任の大切さを知り、遊びを通して適切に判断する力を養います。

自分を好きでいる子ども（自尊感情のある子ども）

自分を表現することは大人になっても大切なことです。自分自身を**自分なりに表現することを受け入れてもらう経験**を繰り返していくことで、自信を深め更に創造力や人とかかわる力を育みます。

この経験積むには子どもが安心できる環境が必要になります。

吉川つばさ保育
園の保育理
念と保育目
標

自ら課題を見つけ、自ら課題解決のために
考え行動できる子ども（主体的に行動でき
る子ども）

心情・意欲・態度があって初めて主体的に行
動することができます。様々なことに対して
自ら選択することを通じて、責任を身に着け
たり学びを深めたりしていきます。自分で選
択をすることから自分の行動に責任を持つこ
とを学び、じりつ（自立と自律）のできる子
どもの育ちにつながります。

思いやりのある子ども（人の気持ちを尊重
できる子ども）

**子ども同士や子どもと大人、大人同士等の
様々なかかわりを経験したり見たりする中**
で自分以外の人の思いや考え、感情があるこ
とを知り、自分だけでなく相手の気持ちも大
切に考え行動する力を育てます。

保育の中で意識する柱

- ①子どもが自ら選択する機会を多くする
- ②やりたいことを実現できる環境を作る
- ③子ども同士が関わり合う機会を持てるよう、大人は橋渡しの役割を果たす
- ④過干渉せず応答的に支援、援助する

保育の中で意識する柱

①子どもが自ら選択する機会を多くする

自分で自分をコントロールし、時には他社の力を借りながら自分の意志で歩を進めていく力を付けていくためには自分の意思で選択してやってみる経験を積み重ねる必要があります。

逆に与える保育や教育を提供し続けることは、自分の意思は関係なく、過程や結果を他者にゆだねてしまい、結果的にうまくいかなかった時に人のせいにしてしまう他責の思考に陥りやすい構造となってしまう。

保育園での生活の中では全ての年齢児において、様々な形で選択する機会を持てるように意識をしています。

保育の中で意識する柱

② やりたいことを実現できる環境を作る

子どもたちにとって遊びは学びです。やりたいことや好きなこと、自然なこと、工夫や努力、成功体験の積み重ねが、自信を持つことや困難を乗り越える力、自分らしさの受容につながっていきます。

ただし、やりたいことを何でも好き勝手にやっただけではなく、ルール（全員が楽しく遊ぶためであったり、社会的なルール等も含めて）の範囲内やその時、その場所の状況によって、やれないことがあることも同時に伝えていく必要があります。その時には代替え案を出したり、違う時違う場所なら代わる等、子ども達が通しうることを持て意を表明したり、通しうることを意思表明したり選択したりできるようにします。

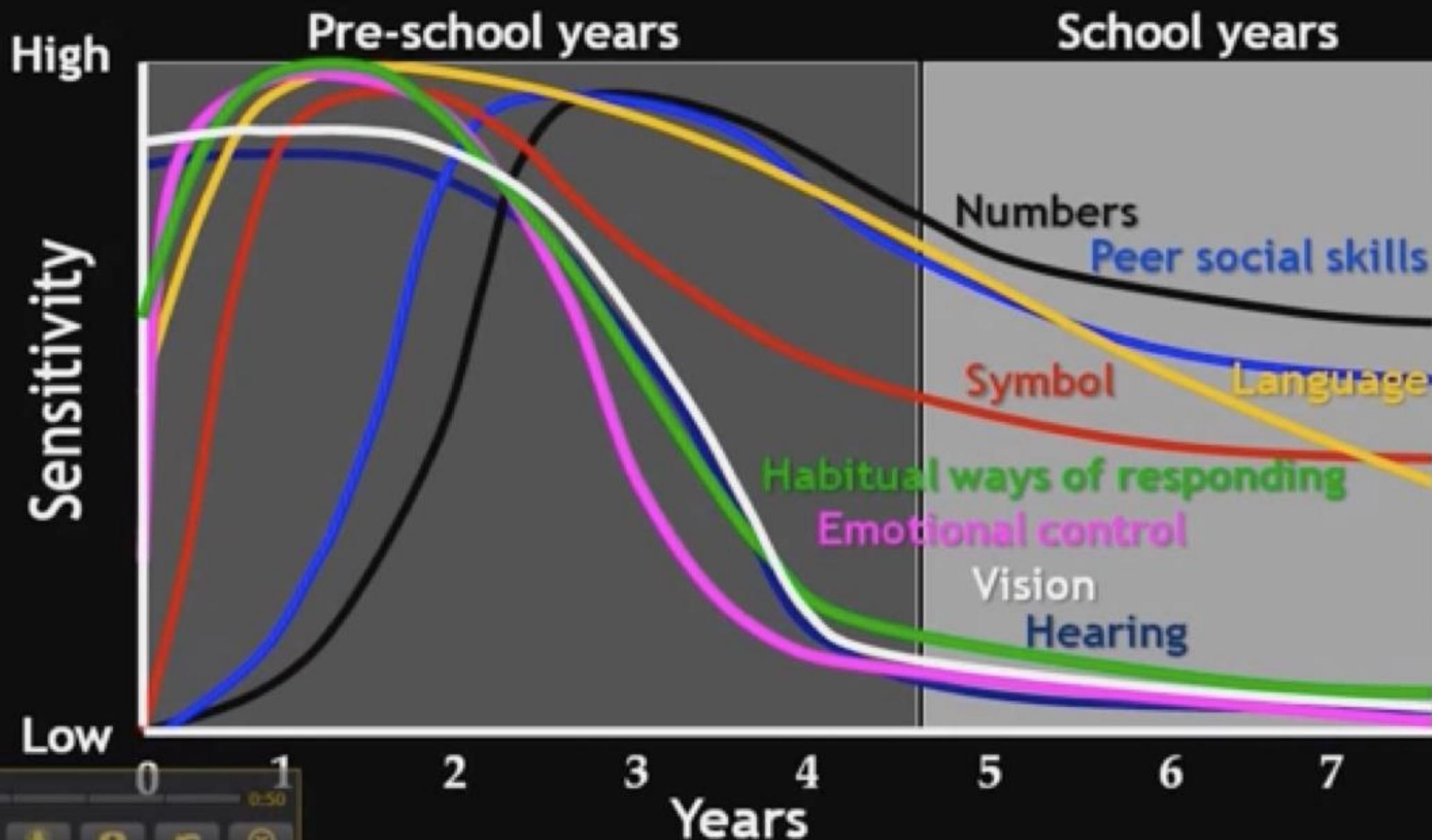
保育の中で意識する柱

③子ども同士が関わり合う機会を持てるよう、大人は橋渡しの役割を果たす

乳幼児期は脳の発達が非常に活発で、特に社会性や感情のコントロールといった将来に渡って重要な役割を果たす部分の育ちは、乳幼児期が一番大きく育つ時期になります。

子ども同士だからこそ起こる葛藤や協力、優しくしてもらった経験などを大人は引き出す役割を果たしていきます。

Sensitive Periods in Early Brain Development



保育の中で意識する柱

④過干渉せず応答的に支援、援助する

その子の今に寄り添うことで、「自分に危機があっても助けてくれる人がいるから大丈夫」という安心感を持てるようになり、チャレンジすることに前向きな思考を身に付ける事が出来るようになります。